

7 社会科学科目（歴史・地理など）

*エジプトの学校において、基本的には小学校、中学校までは社会科学系の内容は社会科として一つの教科として教えられており、高等学校以降は歴史や地理のように専門が分かれるようになっていきます。近年の小学校で使っている社会の教科書には、「社会科」の名称のあとに教科書全体のテーマとなるような副題がついています。例えば、手元にある 2025/26 年度の教科書の場合、「世界の心臓としてのエジプト」(4 年生前期)、「エジプト 祖国と文明の物語」(5 年生前期)、「アラブ世界・私たちを結びつける祖国」(6 年生前期)となっています。なお、近年の高等学校では、エジプト版「バカロレア」制度として生徒は 4 つのコースの中からカリキュラムを選択することになるのですが、社会科学系のコースとしては「ビジネス」、「文学・芸術」のコースがあります。

*エジプトの社会科の教科書をみると、古代文明から続く豊かな歴史の物語はもちろん、地理の分野でいえば砂漠や海といった自然環境など、エジプト社会の成り立ちをさまざまな側面から捉えて各単元が構成されていることが分かります。例えば、今回展示されている 2020/21 年度の小学校 6 年生後期用の社会科教科書は、まさにエジプトの砂漠についての詳しい説明がされている箇所になります。エジプトでは春先になるとカイロの街中であっても砂嵐に覆われるのですが、教科書に載った砂丘や低地、オアシスなど砂漠の地形を細やかに表した国土の地図をみると、改めてエジプトの人々が砂漠の中で生きている人たちであることを実感します。

*これはエジプトに限ったことではないのですが、エジプトでも社会科学系の教科書はそこで扱われている歴史や社会の描き方について多くの議論がなされてきました。例えば、エジプトの教科書には、エジプト南部に住むヌビア人といわれる民族やコプト・キリスト教徒といった、特に少数派の民族・宗教の人々に関する記述が少なすぎるのではないかと(逆にいうと、教科書の内容が多数派であるアラブ人やイスラーム教徒の話に偏っているのではないかと)という意見があります(Abdou, 2023)。民族や宗教の問題は非常にデリケートであり、少数派の人々をどのように描くかはエジプトの社会科学系の教科書の中でも慎重に議論されてきたテーマの一つです。

*上記の点に関連して、エジプトの歴史記述にしばしば登場する図式の傾向として、「外国の植民地支配者」からの解放が描かれることが多いといえます。国の運命と資源を奪おうとする外国勢力に対して、強い軍事指導者に率いられたエジプト人が戦いに最終的に勝利を収めていく物語が好まれるということです(Abdou, 2023)。確かに、近年エジプトで出版されている教科書をもとでも、エジプトの軍隊に焦点があたっているようにみえる箇所が随所にあることに気がつきます。エジプトの教科書からは、エジプトの人々の生活にとって、軍隊や戦争がいまも身近にある存在であることが感じられます。

- Abdou, E.D. (2023) "The Egyptian Educational System and Curriculum Since the 1800s Until the Present: Key Continuities and Changes." In: *Education, Civics, and Citizenship in Egypt. Curriculum Studies Worldwide*. Palgrave Macmillan, Cham.